

街路網決定後三年餘で延長に於て計畫路線の三割近くの竣工を見て居るのは宇部市の財力並に發展に伴ふ街路新設の必要に迫られた事によるのは勿論であるが、従前述べた宇部市の従來の道路新設に當つて申合せを實行して居ること、都市計畫路線の有する制限力を充分活用して居る處にあると思ふ。

三重を貫く

上井萍人

伊勢大橋、熊野大橋已に成つて、愛知、和歌山と提携した三重は、更に紀勢を阻むだ天嶮「矢ノ川峠」を開鑿して、首尾全く一貫し、桑名から新宮まで二二〇キロ、九時間のドライブを可能ならしめた。

伊勢神宮と吉野熊野國立公園の大景觀を三時間で連繫し

又此等の道路工事が皆都市計畫事業として施工されたものではなく他の事業で施工されたのである。

發展性著しき都市に於ては何れにしても早く道路計畫を樹立して道路築造の基準とし、一方家屋建築の制限をなし將來の工事費の低減を計ると云ふ事が非常に効果があると云ふ事は宇部市の例を見ても痛切に感じるのである。

た。

此大動脈の躍動は、三重の全軀、毛細管の末梢まで反映して、「觀光は先づ道路から」の時代モットーを如實に、皇紀二千六百年を控へ神都計畫と呼應して、千古の原始林、翠巒碧波に迫る奇岬の神秘境に芳醇な建國以來の繪巻物を

繰り展げた。そうして現代人が求めむとして、得られなかつた清新な風光は到る處に、稗史、傳説、物語、淨瑠璃ととりどりの色彩と情操を織り込むで、その絢爛を競つてゐる。

全國十二國立公園の殆んど全てが火山系を主題とした景觀である中に、獨り水成岩系の大景勝地帯として、氣を吐いてゐる吉野熊野國立公園の幽玄性は、全く奥底が分らぬ。

其包容する山嶽美、峽谷美、海洋美の多彩的な大自然は、そのすべてが神秘のリズムに顫へる原始的の風光である。一木一草一水を、凝視して、獨り黙々として、靜中動、動中靜の全幅を味はふ風光である瀬八丁や大臺ヶ原は既に世に知られてゐる。しかしそれは決して吉野熊野國立公園の全貌ではない。世人は大杉谿谷、大蛇崙、上瀬、奥瀬、七色瀬の秘境を見遁がしてはならない。

都人士が、俗塵遠く離れて是等千古の幽境に己れの姿を見出し得て、胸裡を激しく衝くものは何であらう？——。

鐵虹十五連、颯々、乾坤に劃して、天下の名川揖斐、長良に架せられた東洋一を誇る「伊勢大橋」橋上の風光は、河川美と平原美を一眸の裡に蒐め得て、俗腸を洗ふに充分である。水郷の長島、浮世繪の桑名を近景に、伊曾島の松を隔て、下流、遙かに伊勢の碧海を望み、上流、長堤の盡きる處遠く多度の藍黛を仰ぐ、晴れてよく曇つてよくまさに一幅の繪である。さらに大橋の中央から連絡する岐阜への捷路を辿れば七キロ五にして寶曆薩摩義士を祀る油島治水神社に詣でて三大川の治水史を尊い犠牲の血液で彩つた八十三士の苦節を亭々と聳へ續く千本松原の松籟に偲ぶことが出来る。

三重の交通文化を遮斷して、熊野路を浮世から引離してゐた矢ノ川峠は海拔實に八百米の高峰で、行人は、千六百米の索道と崎嶇羊腸の小徑を辿つて膽を潰したり冷したりして此峠を越してゐたのだ。

今や天嶮は克服された。そうして新裝成つた尾鷲——木ノ本間四十三キロのドライヴウエーに瀟洒たる省營バスの

姿が現はれ、車窓に雲煙去來の山嶽美が展開されて新風景が生れた。しかしそこには拂はれた大きな犠牲があつた。

雑木粗鬆の矢の川峠は全山花崗岩でしかも脈が亂れてゐた。殊に前人未踏の新鑿路八キロの開拓には息詰るやうな難工が續けられた。爆破の響、槌の音は山から山へ飜して、矢ノ川の峽谷は、阿修羅の巷と化して遂ひに即死四名と傷者二百數十名を交通革命に捧げた。――

皮肉なことには苦んだ處程、景色が好くて、後世、名吟を生み、名畫を貽しさうな處許りだ。矢ノ川峠の風景が、世に出る頃には、峰も谷も駒み建設の勞苦は、草や苔に掩はれて、世人は氣がつかぬかも知れぬ。二ヶ年の難工事も、僅か二時間半で新風景に陶醉しながらドライブが出来るのだから。――

千古の史趣を包藏する熊野の秘境に、交通文化の新紀元を劃して、近代裝の熊野大橋が出現した。そうして、長汀曲浦の七里御濱と奇巖奇岩の勝浦海岸を繋いだ。

由來、謡曲に、淨瑠璃に、戯曲に、熊野路の情緒は、餘

りにも古典的に描き出されてゐる。鐵や混凝土やベンキは、世人の認識する熊野路とは、其對照が不調和であるかも知れぬ。

しかし、熊野路への文化の浸潤と觀光施設の充實が、聽て、珠玉の風光を浮世に近づけるのだ。

尙萍人氏の選擇した縣内沿線の觀光地を紹介する。(洗) 尾張大橋、伊勢大橋、桑名町、富田町と富洲原町、四日市市、追分の大鳥居白子町、津市、松坂市、三瀬谷村、瀧原宮(瀧原村)、長島町、三野瀬村、魚跳溪(相賀町銚子川の上流)大臺ノ原登口(船津村、相賀町、尾鷲町の三ヶ所)尾鷲町、矢ノ川峠(尾鷲木本間)木ノ下町、有井村、七里御濱、阿田和町、熊野大橋。

×

×